



教育センターだより

高岡市教育センター
令和5年10月12日



帰するところ

高岡市教育委員会

教育次長・学校教育課長 岩田正弘

高岡市内には、小学校23校、中学校11校、義務教育学校1校、特別支援学校1校、合計36の学校があり、約11,000人の児童生徒が在籍している。教員は全部で約800人が勤務しており、今年度は、20歳代27%、30歳代28%、40歳代18%、50歳以上27%となり、幅広い年齢構成となっている。

現在、高岡市は、再編統合や小中一貫教育、学力向上、特別支援教育の充実、不登校の対応、学校の働き方改革、休日部活動の地域移行など、教育委員会と学校現場が抱える課題は多岐にわたっている。

さらに、これは高岡市のみに限ったことではないが、GIGAスクール構想や校務支援システムの導入、最近では生成AIの活用が議論されるなど、学校教育のDX化は、社会全体の大きな流れを受け、急速に発展してきた。

さて、このような中、昨年度は18校、今年度はこれまで11校の学校訪問研修会に参加させていただいている。どの学校も自校の課題に真摯に向き合い、校長のリーダーシップのもと大変適切かつ丁寧に対応いただいていると感じているところである。

中でも、心を打たれるのは、20代の若手教員から再任用教員まで「教師は授業で勝負する」と言うごとく、一人の教師として、真剣に児童生徒と向き合い、熱意をもって授業に取り組んでいるということである。

「教育は人なり」と言われて久しい。教育に大切なのは「人」であり、人と人との良好な関係が教育効果に繋がるという意味である。学校教育は、児童生徒と教師の人間的な関わりが大切であり、教師という「人」を抜きにして語る事が難しいのは、学校教育のDX化が進んだ今も、アナログで処理をしていた昔も同じであることを、今一度再認識したい。

また、今日の厳しい経済状況や世間の教育に対する関心の高さを鑑みると、今日ほど教師としての姿勢や在り方が問われているときはないと感じるときもある。

教員生活30年を過ぎた今、当時の些細な声かけやこちらの振る舞いが、子供の将来に大きな影響を与えていたということ、今になって身に染みて思うことがある。

学校教育の帰するところ、それは「人」であると思う。子供の健やかな成長を願うのであれば、まずは、我々教師一人一人が、自分自身を俯瞰的に見つめ、自らの「人」の力を高めるよう努めていきたいものである。

学校教育のDX化や学校に課せられた課題も山積し、教員に求められる力も、また身に付けなければならないスキルも多岐にわたる昨今であるが、「人」の力を磨き高めるという不易の部分をおぼろげに忘れることなく、高岡の児童生徒のウェルビーイング（真の幸せ）を願い、現在の職務を努めていきたい。

学び続ける教師を目指して

1学期から夏季休業中にかけて実施した研修の取組や学びについて紹介します。



キャリアステージに応じた学び

◇ミドルリーダー研修会

【第1回】6月20日(火) 戸出コミュニティセンター (参加者36名)

講話 —ミドルリーダーとして—

芳野中学校 水戸 英之校長先生から「ミドルリーダーとして」と題して講話をしていただきました。リーダー像は十人十色であり、様々な経験を通して自分らしいリーダー像をつくりあげていくことや、学校運営に不可欠な「マネジメント」の意義と具体について、様々な視点から分かりやすく話してくださいました。参加者のアンケートからは、「活動のねらいや目的を考える」「人とのつながりを大切にする」等、ミドルリーダーとして、今後の自分自身の在り方を考えていこうとする言葉が多くみられました。



【第2回】8月2日(水) 戸出コミュニティセンター (参加者33名)

講話 —学校の危機管理について—

高岡市教育センター 高松 毅所長が、学校の危機管理をテーマに講話をしました。学校には、どのような危機が潜んでいるのかを自身の経験を基に、具体的な事例を紹介しました。グループ協議では、熱心に自校の事例を出し合い、共感したり、危機を防ぐ方法について話し合ったりする姿が見られました。危機と向き合う際に忘れてはいけない言葉「危機管理＝学校への信頼」「教師としての感性を磨く」を教示されたことで、参加者は、危機管理の重要性と責任、そして教師としてのやりがいを実感することができました。



確かな学力と心の教育

◇学力向上研修会

8月1日(火) 伏木コミュニティセンター (参加者40名)

— 指導と評価の一体化を目指す授業づくり —

大妻女子大学家政学部の澤井 陽介教授をお迎えし、学力向上研修会を行いました。「指導と評価の一体化を目指す授業づくり」についての講演では、途中グループ協議を行い、授業の中で「児童生徒が『選択する場面』」について意見を出し合いました。澤井教授からは、全員で課題共有した上で、各自が方法等を選択して自己調整しながら粘り強く課題を追究し、振り返るといふ学びの姿が求められることを教えていただきました。研修後のアンケートには、「評価は授業改善のために行うもので、一人一人がどこまでできているかを現在進行形で捉えるべきであると実感した」「評価の観点によって評価するタイミングや軽重を柔軟に考えることが必要だと分かった」といった感想が多く寄せられました。



◇道徳教育研修会

8月7日(月) 伏木コミュニティセンター (参加者40名)

— 「主体的・対話的で深い学び」を生む道徳科の授業 —



畿央大学教育学研究科の島 恒生教授をお迎えし、道徳教育研修会を行いました。道徳科では、自己を見つめ、友達の思いを聴いたりしながら一生懸命考え、「なるほど」とつぶやきが出る授業を目指すべきであり、登場人物の心情理解に偏った学習に終始してはいけないことを教えていただきました。グループ協議では、「心と心のあく手」「1冊のノート」の教材文を基に、多面的・多角的な考えを生む中心発問をグループごとに考える活動を通して、その重要性を学ぶことができました。「子供の中で行き交う意見に教師がどのように関わっていくかで学びが深まるかどうかが決まる」という島教授の言葉に身が引き締まる思いがしました。

今日的な教育課題に対応した学び

◇ICT活用研修会

第1回 4月25日(火) 牧野小学校 (参加者 36名)
第2回 8月 3日(木) 志貴野中学校 (参加者 30名)



ICT活用推進委員会の先生方が中心となって実技研修を行いました。第1回は、発達段階に応じた学習専用端末の効果的な活用法について研修しました。第2回はマイクロビットとビットバックレーサーを活用したプログラミング学習やプレゼンテーションアプリのスウェイによる学習のまとめ方を体験しました。

◇子供の心サポート研修会

6月21日(水) 戸出コミュニティセンター(参加者19名)

— 児童生徒理解と対応について —



富山県総合教育センター教育相談部の研究主事を講師にお招きし、児童生徒理解と対応についてご講話をいただきました。グループ協議では、自分が関わっている「気になる子」の様子やその心情について話し合い、その子が何に困っていてどうなりたと思っているかを想像する活動を通して、見えないものを見ようとする姿勢が必要なことに気付くことができました。

◇外国人児童生徒教育研修会

8月2日(火) 戸出コミュニティセンター(参加者20名)

— 外国人児童生徒への対応について —

文部科学省外国人児童生徒等教育アドバイザーの花島 健司先生をお招きし、外国人児童生徒への対応についてご講演いただきました。「多文化共生」をキーワードに日本語指導や様々な教育支援について教えていただきました。

参加者は、劇やゲームなどの演習を通して、文化の違いによる戸惑いや不安を抱える子供の気持ちを考え、子供の実態を多面的に捉えることの大切さを実感することができました。



◇通常級での特別な配慮を要する子供への支援研修会 (NEW)

7月28日(金) 戸出コミュニティセンター(参加者31名)



きずな子ども発達支援センター発達支援室の笹島 久美子室長を講師にお招きし、発達障害の種別やその特徴等について説明していただきました。グループ協議では、子供の具体的な事例を基に、困り感の要因や支援の仕方等話をしました。子供の特性を理解していないことで、NG対応をしていたことに参加者が気付く場面もありました。担任の笑顔が最大の教育環境であり、子供にとって安心感のあるクラスづくりを目指してほしいという笹島室長の言葉が心に響きました。



体験を通した学び



◇運動あそび実技研修会 (NEW)

6月1日(木) 高岡西部総合運動公園
(参加者25名)

富山大学 准教授 澤 聡美先生をお招きし、幼児期や小学校における運動あそびについてご講義いただきました。実技では、子供の心身の発達に有効な運動あそびをいくつか紹介していただきました。参加者は、積極的に体を動かし、会場は笑顔であふれていました。

◇ものづくり・デザイン科研修会

7月25日(火)、31日(月) 高岡地域地産産業センター ZIBA(参加者12名)

「青貝塗り」は伝統工芸漆器協同組合、「砂型铸造」は高岡銅合金組合の職人の方を講師にお招きしました。参加者は、職人さんの高い技術に感動し、実際に工程を体験することで、指導する際のポイントについて理解を深めることができました。

◆高岡イングリッシュセミナー ‘2023’ ◆

8月21日(月)に、伏木コミュニティセンターを会場にして「高岡イングリッシュセミナー ‘2023’」を開催しました。高岡市内の小・義務教育学校(前期)6年生28名と中・義務教育学校(後期)3、9年生22名が参加し、郷土の魅力に触れながら英語に親しむ活動に取り組みました。

午前中は、英語を使ったゲームで交流したあと、ワークショップでフラダンスやバルーンアートを体験しました。また、国宝勝興寺ではウォークラリーを行い、外国語指導助手(ALT)や英語科教員と英会話を楽しんだり、クイズに答えたりしました。

午後からは、12の中学校区ごとに分かれて、校区の特色を英語と画像で紹介する練習を行った後、互いの紹介を見合いました。参加者からは「もっと英語を使ってコミュニケーションをとりたいと思うようになった」「他の中学校区のよさを知ることができて、とてもよい機会になった」「ALTの話聞いて今までより更に外国に行きたいと思う気持ちが強くなった」などの感想が聞かれました。



★ 高岡市適応指導教室(きらら子教室)の紹介 ★

悩みを抱える児童生徒や保護者との相談活動、不登校児童生徒への援助等を行っています。対象児童生徒についての相談は随時受け付けております。(TEL 20-1656)

◇日常の活動…教育相談、学習活動(スタディタイム)、体育活動 等

◇特設の活動…ものづくり体験講座、校外学習、絵手紙教室、親子交流会、氷見市・射水市との交流会 等

◇関連活動 …保護者個別懇談会、学級担任との情報交換会、高岡地域親の会 等

貸出中! 申込は、☎20-1204まで

◆プログラミング教材◆

- ・マイクロビット 300セット
- ・ビットパックレーサー(4輪車) 40台
- ・湿度センサー 40個

◆視聴覚教材◆

- ・DVD
- ・ビデオテープ
- ・紙芝居

◆研修図書・教育資料◆

- ・教科書
- ・教育論文
- ・指導案 等

◇初任者研修会、若手教員研修会、専科教員研修会

高岡市では、独自の初任者研修会と若手教員研修会や専科教員研修会を実施しています。

それらの研修会の様子は、後日発行する「若手研だより」や「センターだより 233号」でお知らせする予定です。



高岡市教育センター

〒933-8601 高岡市広小路7番50号(学校教育課内)

TEL 20-1204 FAX 20-1667

ホームページ **高岡市教育センター** **で検索!**

—所員紹介—

所長	高松 毅
次長	橘 麻里
教育専門員	林 由香
指導主事	坂田 和穂
指導主事	木越 明子
教育相談員	松谷 均
教育相談員	永井 誠
教育相談員	泉 佐知子
事務員	島崎多紀子
事務員	上坂 哲也